



## 池田のお茶

文 山田 みどり



▲小寺地区の茶園

ここはふれあい街道沿いの小寺の展望台です。前後左右の斜面には茶園がぐるっと広がっています。池田ではいつ頃から栽培されていたでしょう？龍徳寺の文書には室町時代後期の1511年に茶園の寄進を受けたという最も古い記録があります(池田町史)。その後の江戸・明治期に池田のお茶の発展に寄与

された3人の人を紹介しましょう。  
①六之井村庄屋の五十川兵治郎は江戸時代中頃の1793年に茶園2反を開き、その後宇治より茶師を招いて煎茶を作りました。西本願寺に献上したところ、そのおいしさ(清冷甘味)に感動した広如上人からお褒めの和歌を頂いています。

「いく春もつめるこのめの名にあひてむつましかれと祝ふ六の井が

②摘まれた茶葉は蒸した後かまどの火で焙つて乾燥させますが、この焙炉技術はとても難しいのです。東野村の今西判左衛門は1820年代に何度も宇治の上林家に向いて職人に近づき、その「企業秘密」を得ようとした。後に身元を隠して来ていることを正直に告白したところ、その熱意に感心して茶師を送ってもらえました。

③幕末・明治の貿易では緑茶が大量に輸出され、業者が品質の善し悪しも構わず買集めたため産地では粗製乱造となりました。これに心を痛めた初代

五十川源左衛門は(明治14年製茶開業)、まず製法改良品質向上に力を注ぎ、博覧会で賞を取りながら買い手の信用を得て国内外への販路を開拓しました。郡や県の茶業組合の品評会の審査をしたり、揖斐郡の組合長にもなりました。



▲茶恩の碑(霞間ヶ溪)

昭和53年に茶業者有志によって霞間ヶ溪の街道沿いに「茶恩の碑」が建てられています。先人の苦勞功績を偲びつつ、池田町で栽培加工される香り高いお茶をゆつくり味わってみましょう。

(参考：池田町茶業史『茶と共に歩みて』)



編集 池田町観光ボランティアガイド協会